

柔道整復師国家試験における解剖学の出題傾向

角田 佳貴, 田村 哲也

了徳寺大学・健康科学部整復医療・トレーナー学科

要旨

「目的」柔道整復師国家試験（以下、柔整国試）に出題されている科目である解剖学の出題傾向を明らかにすること。

「方法」必修問題が導入された第14回～第25回柔整国試に出題された解剖学の問題を対象とし、全国柔道整復学校協会監修の解剖学の目次に倣い分類し、出題数を必修問題と一般問題に分けて調査を行った。また、第14～16回と第23回～25回の出題傾向を比較した。

「結果」第14回～25回柔整国試において必修問題で最も多かったのは、15問出題されていた骨格系であった。次いで筋系が8.5問、心脈管系が5問であった。一般問題で最も多かったのは、39.5問出題されていた末梢神経系であった。次いで筋系が34.5問、骨格系が30問であった。第14～16回と第23回～25回を比較した結果は、両群共に必修問題では骨格系が最も多く出題されており、一般問題では末梢神経系が最も多く出題されていた。

「考察」柔整国試科目である解剖学では柔道整復師の業務の特性を考慮した問題が出題されていることがわかった。国家試験合格に向けた学習の質の向上につなげていきたいと考える。

キーワード：柔道整復師国家試験, 解剖学, 出題傾向

Questionnaire of anatomy in JudoTherapy national exam

Yoshiki Tsunoda¹⁾, Tetsuya Tamura¹⁾

Department of JudoTherapy and Sports Medicine, Faculty of Health Sciences, Ryotokuji University¹⁾

Abstract

Purpose : Examine the tendency of anatomical problems that have been entered in the Judo Practitioner National exam. Our examination Targeted anatomical questions that were presented in the 14th to 25th national exams where compulsory problems were introduced, classified according to the table of contents of the anatomy supervised by the Association of judo therapy schools of the whole country. Also, we investigated the change of the question tendency of the 14th to 16th and the 23rd to 25th. Result : In the 14th - 25th national exams, the most frequent of compulsory problems was the skeletal system which had 15 questions. Then the muscular system was 8.5 and the cardiovascular system was 5. The most common problem was the peripheral nervous system, which had 39.5 questions. Next, muscle system had 34.5 questions, and skeletal system had 30 questions. Comparing 14th to 16th and 23rd to 25th, the skeletal system was most frequently asked for compulsory problems in both groups, and the most common peripheral problems were peripheral nervous system.

Consideration : In anatomy which is a national examination subject of judo therapy, it was found that question

which considers the characteristics of the work of judo therapists are given. We would like to lead to the improvement of the quality of learning for passing the national exam.

Keywords: national examination, anatomy, question trend.

I. 背景

柔道整復師国家試験（以下、柔整国試）は現在までに25回実施されている。受験者数は第1回柔整国試では1,066名、必修問題が導入された第14回柔整国試で5,127名、今年度行われた第25回柔整国試では6,727名が受験しており、第1回に比べると受験者数は約6.3倍増加している（図1）。その一方で、柔整国試の合格率は、第1回では90.3%、第14回で73.2%、第25回では63.5%であった。第1回と比べると26.8%も合格率が低下している。さらに第23回、第24回、第25回柔整国試の合格率はそれぞれ、65.7%、64.3%、63.5%であり、3年連続で最低記録を更新している（図1）。柔道整復師を養成する学校において、最終目的は国家試験合格による免許取得にあるが、このような結果から柔整国試対策が上手く機能していないことが推測され、柔整国試対策の見直しをする必要があると考えられる。当大学においても合格率100%を目指して柔整国試対策に取り組んでいる現状があり、教科ごとの出題傾向の把握は必要不可欠であると考えられる。

柔整国試は必修問題30問と一般問題200問の計230問で構成されており、合格基準は必修問題が30問中の8割にあたる24問以上、一般問題は200問中の6割以上にあたる120点以上取得することで合格とされる⁴⁾。出題科目は、解剖学、生理学、運動学、病理学概論、衛生学・公衆衛生学、一般臨床医学、外科学概論、整形外科学、リハビリテーション医学、柔道整復理論、関係法規の11科目で構成されている。

その中で解剖学（必修問題4問、一般問題30問）、生理学（必修問題3問、一般問題25問）、柔道整復理論（必修問題14問、一般問題45問）は問題数が多く、国家試験問題の約50%を占めている。過去、柔道整復理論については必修問題^{1) 2)}と一般問題³⁾それぞれの出題傾向が調査されているが、解剖学の出題傾向についての調査は少ない。解剖学は柔道整復理論に次ぐ問題数の多い科目であり、合否に関わる科目として柔整国試対策においても大変重要な科目として位置付けられている。解剖学の出題傾向を把握することで効率的な国家試験対策が可能となることが考えられることから、その詳細を調査し報告することとした。

	受験者数	合格者数	合格率
第1回	1,066名	963名	90.30%
第2回	1,194名	1,059名	88.70%
第3回	1,213名	1,005名	82.90%
第4回	1,276名	1,063名	83.30%
第5回	1,296名	1,137名	87.70%
第6回	1,251名	1,071名	85.60%
第7回	1,266名	1,091名	86.20%
第8回	1,260名	1,024名	81.30%
第9回	1,338名	1,041名	77.80%
第10回	1,439名	1,128名	78.40%
第11回	2,454名	2,108名	85.90%
第12回	3,000名	2,215名	73.80%

第13回	4,122名	2,902名	70.40%
第14回	5,127名	3,755名	73.20%
第15回	5,944名	4,416名	74.30%
第16回	6,702名	5,069名	75.60%
第17回	6,772名	4,763名	70.30%
第18回	7,156名	5,570名	77.80%
第19回	6,625名	4,592名	69.30%
第20回	6,754名	5,227名	77.40%
第21回	6,503名	5,438名	68.20%
第22回	7,102名	5,349名	75.30%
第23回	6,858名	4,503名	65.70%
第24回	7,122名	4,583名	64.30%
第25回	6,727名	4,274名	63.50%

図1. 柔整国試の受験者数, 合格者数, 合格率

II. 目的

必修問題が制定された第14回～第25回までの柔整国試科目・解剖学における出題傾向を明らかにすることである。

III. 方法

柔道整復師教科ガイドラインに沿った全国柔道整復学校協会監修の解剖学の目次に倣い, 1. 人体解剖学概説, 2. 運動系, 3. 脈管系, 4. 内臓系, 5. 内分泌系, 6. 神経系, 7. 感覚器, 8. 体表解剖, 9. 映像解剖と分類し, 出題数を必修問題と一般問題に分けて調査を行った。また, 直近で行われた柔整国試と過去に行われた柔整国試で出題傾向に変化がないかを調査するために第14回～第16回柔整国試と第23回～第25回柔整国試の2群に分けて出題傾向を調査した。

IV. 結果

第14回～25回国家試験において必修問題で最も多かったのは, 15問出題されていた骨格系であった。次いで筋系が8.5問, 心脈管系が5問であった (図2)。

一般問題で最も多かったのは, 39.5問出題されていた末梢神経系であった。次いで筋系が34.5問, 骨格系が30問であった (図3)。

必修問題で最も出題されていた骨格系と一般問題で最も出題されていた末梢神経系をさらに中項目で分類すると, 骨格系では脊椎についての問題が6.25問と最も多く出題されており, 末梢神経系では腕神経叢についての問題が8.75問と最も多く出題されていた (図4, 図5)。

第14～16回と第23回～25回を比較した結果は, 両群共に必修問題では骨格系が最も多く出題されており, 一般問題では末梢神経系が最も多く出題されていた (図6, 図7)。

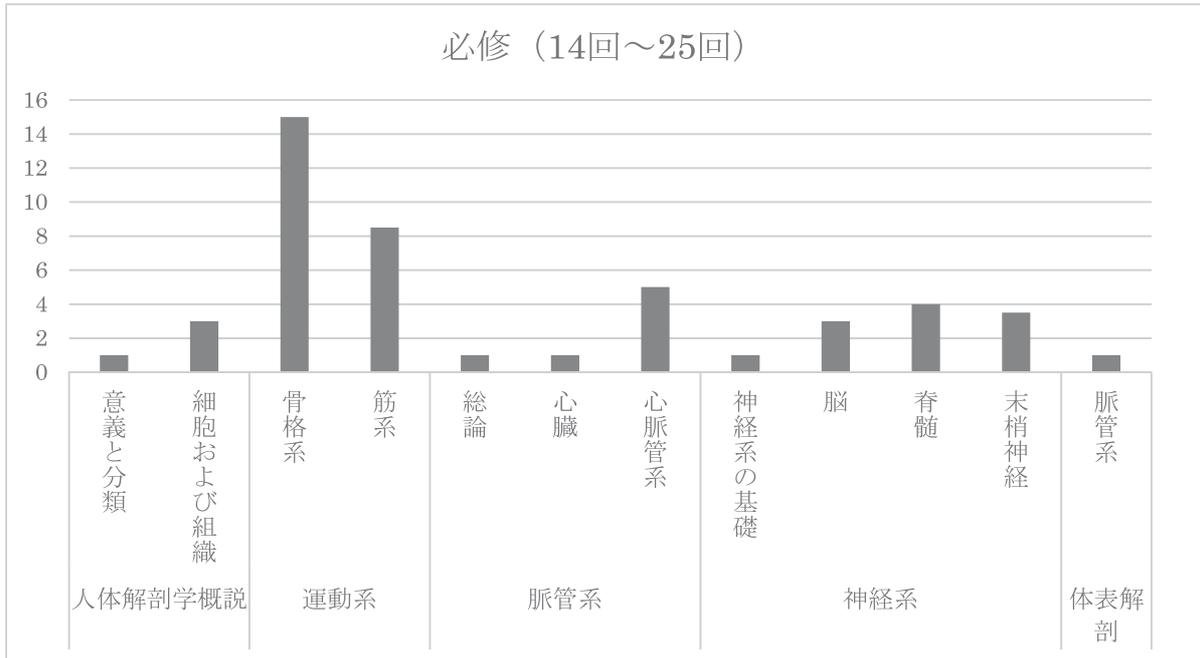


図2. 第14回～第25回までの必修問題の出題数

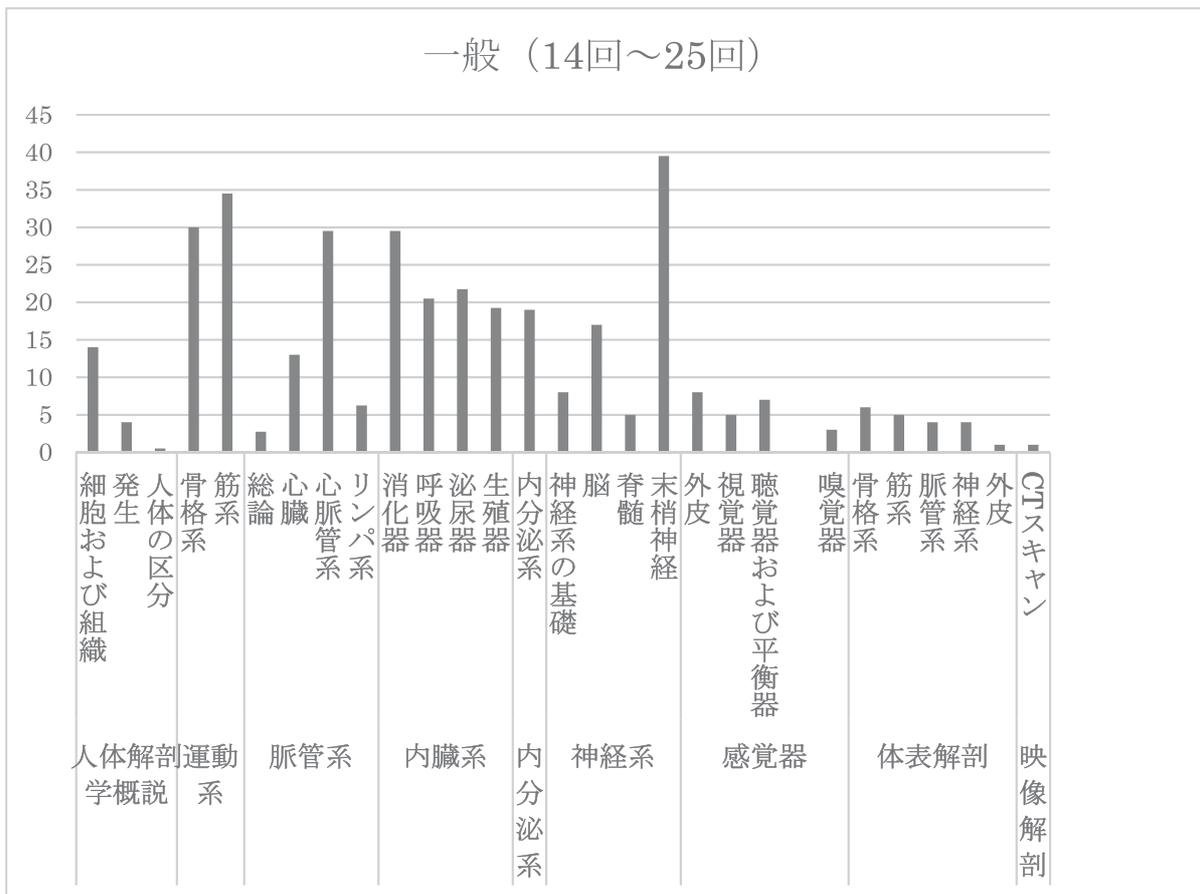


図3. 第14回～第25回柔整国試の一般問題の出題数

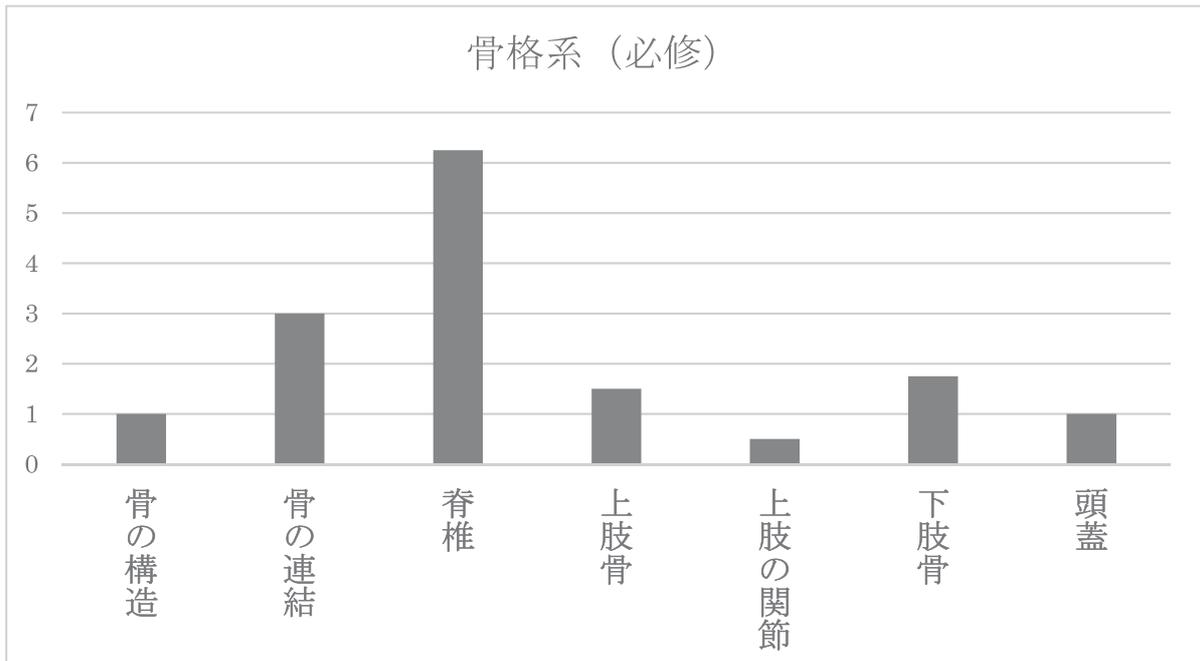


図4. 第14回～第25回の骨格系（必修問題）の出題数

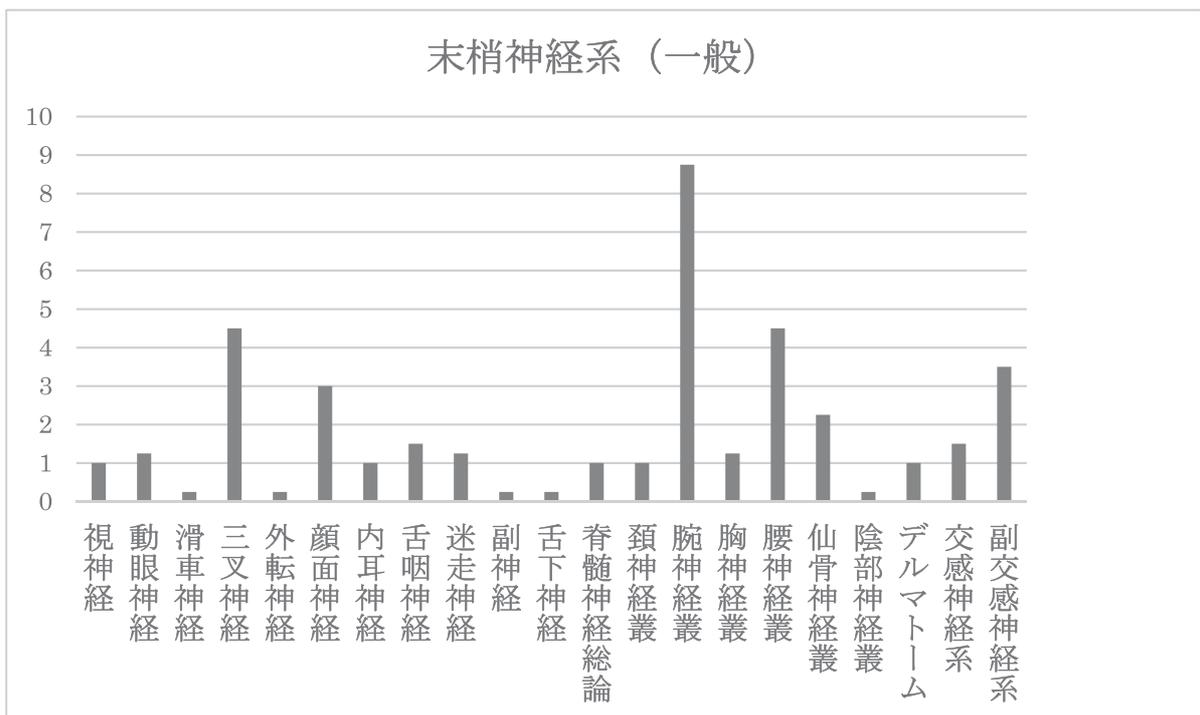


図5. 第14回～第25回の末梢神経系（一般問題）の出題数

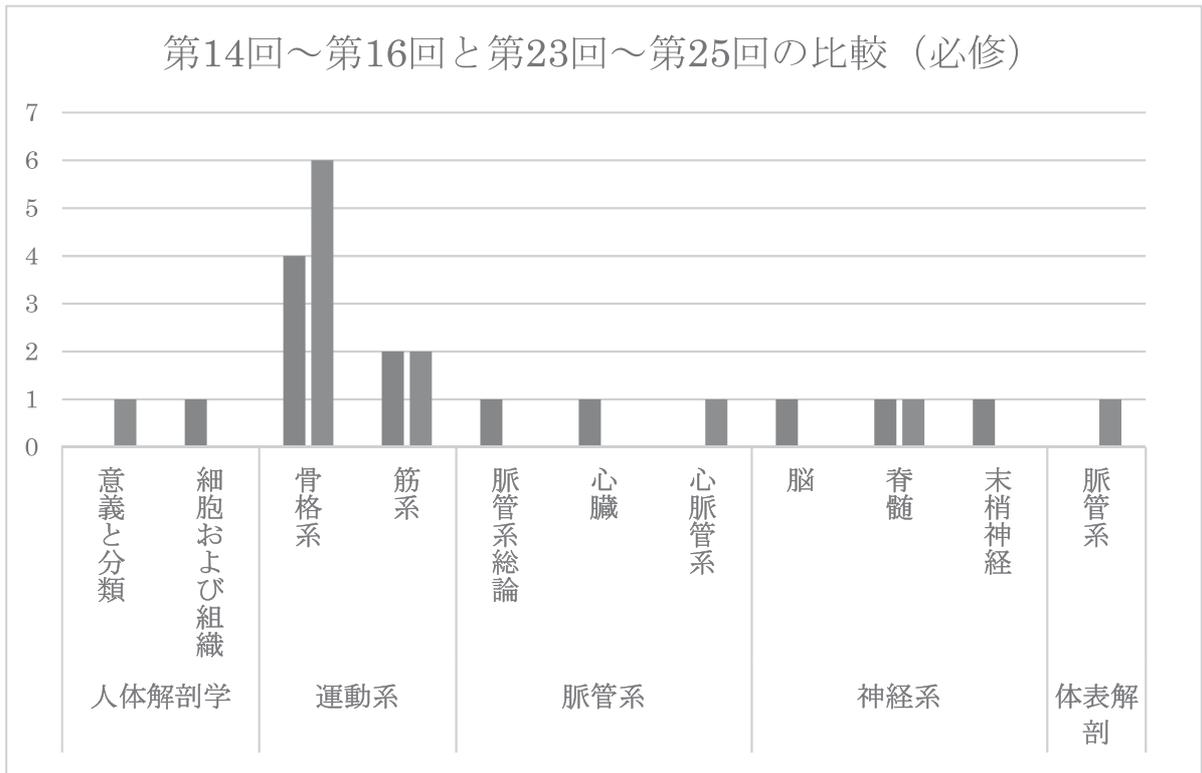
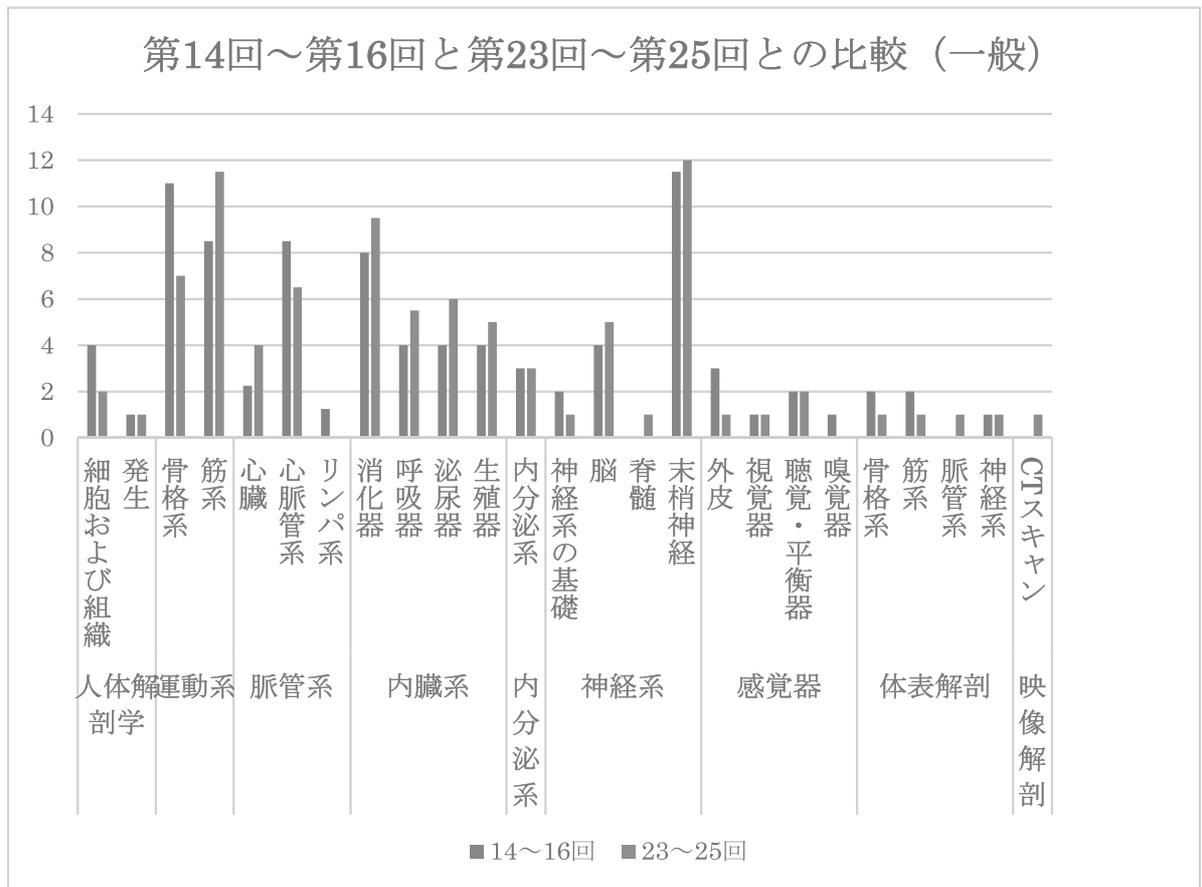


図6. 第14回～第16回と第23回～第25回の出題傾向の比較



V. 考察

図7. 第14回～第16回と第23回～第25回の出題傾向の比較（一般問題）

第14回～25回柔整国試の必修問題では骨格系，筋系，心脈管系の順で問題が多く出題されており，最も多く出題されていた骨格系では脊椎についての問題が多く出題されていた．一般問題では末梢神経系，筋系，骨格系の順で問題が多く出題されており，最も多く出題されて末梢神経系では腕神経叢についての問題が多く出題されていた．

また，第14回～16回柔整国試と第23回～第25回柔整国試を2群に分けた出題傾向の比較では，ともに必修問題では骨格系が，一般問題では末梢神経系についての問題が最も多く出題されていた．

柔道整復師の業務は骨折，脱臼，打撲，捻挫，挫傷の施術を行うことである⁴⁾．全国柔道整復学校協会監修の解剖学においては柔道整復師の特性を考慮して，骨・関節・筋の記載に重きをおいたとされている⁶⁾．このことから柔道整復師にとって，骨格系，筋系の基礎知識は施術を正確に行う上で大変重要であり，多くの出題がされていたと推察される．その中でも脊柱はあらゆる身体運動の軸であり，運動を支えるために多数の靭帯および筋が付着しており，骨格系の基礎となるものであるため多くの出題がされたのだと推察される⁶⁾．

また，骨折や脱臼では合併症として神経損傷や血管損傷などが挙げられる．例えば肩関節周辺の骨折の40%以上を占める鎖骨骨折では腕神経叢や鎖骨下動静脈の損傷を起こしやすい⁷⁾．また，小児肘関節周辺の骨折の60%を占める上腕骨顆上骨折では正中神経損傷，上腕動脈損傷を起こしやすいといわれており⁷⁾，柔道整復師の施術には，末梢神経や動静脈損傷の合併症が生じやすい．このことから心脈管系や末梢神経系の基礎知識を確認するための問題が出題されていると考える．その中でも腕神経叢は，橈骨神経，尺骨神経，正中神経等を含み，合併症により損傷しやすいため，出題数が多くなったと推察される．

今回の結果から柔整国試科目である解剖学では柔道整復師の業務の特性を考慮した問題が出題されていることがわかった．今後は解剖学の出題傾向に対応した授業や問題演習を行うことで，国家試験合格に向けた学習の質の向上につなげていきたいと考える．

参考文献

- 1) 松本楊，岡田隆，岡村知明ほか（2015）柔道整復国家試験必修問題に出題された柔道整復理論の出題傾向．了徳寺大学研究紀要．9，97-101
- 2) 服部辰広，久保山和彦，猪越孝治（2016）第13回～23回柔道整復師国家試験における必修問題の出題分析－柔道整復理論154問の分析より－．日本体育大学紀要．45，2，113-117
- 3) 田辺達磨，松本楊，大澤裕行（2015）柔道整復師国家試験に出題された問題の傾向．了徳寺大学研究紀要．9，79-83
- 4) 厚生労働省：第25回柔道整復師国家試験合格発表について，厚生労働省ホームページ，<http://www.mhlw.go.jp/general/sikaku/successlist/2017/siken16/about.html>（2017.11.19 16:30アクセス）
- 5) 社団法人全国柔道整復学校協会監修（2009）関係法規改訂第2版，医歯薬出版株式会社，東京．
- 6) 社団法人全国柔道整復学校協会監修（2009）解剖学改訂第2版，南江堂．東京．
- 7) 平澤泰介，北條達也，橋本俊彦監修（2010）柔道整復外傷学ハンドブック【上肢の骨折・脱臼】，医道の日本社，神奈川